

“ヒラメキ”からはじまる
企業ストーリー

「終わる為」ではなく、「継承する為」に活動する【一般社団法人継活推進協会】

文 牛久保洋次

text by Yoji Ushikubo

【未常識】今は常識ではない、でも未来に常識となる事：これは私が作った造語です。

【生】と【死】、人生の中で一番心に残る出来事です。ここ最近では「終活」という言葉も誕生しておりませんが、まだまだお葬式や相続、病氣（癌）など「死」について生前に考えることに抵抗感を持つ方も多く、生から死までを含めて、本人も家族も豊かな人生を送っていく為の晩年の過ごし方にはたくさん課題があるのではないのでしょうか。

今回は終活ではなく、次世代への継承活動「継活」という新たな概念を社会の常識にすべく、活動している【一般社団法人 継活推進協会】をご紹介します。

同協会の代表理事である富安達也氏は10代で葬儀業界に入り、22歳の時に厚生労働省認定1級葬祭ディレクターを取得。10年間で1000件以上の葬儀を担当してきました。しかし、家族が亡くなってから葬儀までの数日間に出来る事には限界があり、葬儀の前後も家族が向き合わなければいけない様々な問題の多さに気付きました。介護や認知症への対応然り、資産の相続や遺品整理、そして葬儀会社も選択しなければなりません。そうした今まで表面化されにくかった潜在ニーズを掘り起こし、サポートできる体制を整えたのが継活推進協会です。

従来、一つ一つ実践していた事柄をそれぞれの専

門家と共に包括的なサポートが実施できる体制を構築し、これまでは「誰に相談したらよいか分からぬ」という「死」へのお困り事を円滑に進められるよう、弁護士や税理士、司法書士は勿論、不動産、保険、葬儀、仏壇、墓地墓石、生前整理、遺品整理、各分野の厳選されたメンバーが最良の方法を模索して提案しています。大切な事は葬儀だけでなく、亡くなる方への「想い」や「資産」を残された家族にしっかりと継承する事です。

生がある以上、必ず死もあります。死を恐れ、悲しむだけでなく、限られた人生の中で精一杯生き、次の世代へ繋いでいけるものがある筈です。家族をどのように送り出していきたいか、ご自身がどのように送りたいかを考えることも含め、人生と向き合うべき時代がやってきております。

【一般社団法人 継活推進協会】
<https://keikatsu.com/>

今月の一言

人生の最期に

歩むべき道を考える時代!!

これが則ち【未常識の発見】



Profile

慶應義塾大学商学部 卒業
株式会社友アンド愛（レコードレンタルビジネスの開発者）を創業し、代表取締役就任。約700店舗をFC展開する。株式会社ビザカリフォルニアを創業し、代表取締役就任。約400店舗をFC展開する。日本CDビデオレンタル商業組合 初代理事長（社）ニュービジネス協議会 理事等を歴任。
現在、株式会社いかしあい隊 会長、その他顧問数社。